

# 『宝塚の昆虫 I - VII』の補遺 (II)

東 正 雄\*・東 良 雄\*\*

SUPPLEMENTS (II) OF 『INSECTS IN TAKARAZUKA (I-VII)』

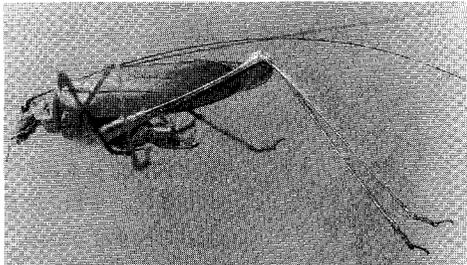
Masao AZUMA・Yoshio AZUMA

宝塚市文化財調査報告第27集『宝塚の昆虫 I』, 平成4年2月: 同28集『2, 甲虫目(I)』, 平成4年3月: 同29集『3, 蛾類(I)』, 平成4年3月: 同30集『4, 甲虫目(II)』, 平成5年3月: 同31集『5, 蛾類(II)』, 平成5年3月: 同32集『6, シミ→トビゲラ, ハエ』, 平成6年1月: 同33集『宝塚の昆虫7, ハチ・アリ・ノミ・補遺(I)』, 平成6年3月と, それぞれ宝塚市教育委員会から発行された。その後, 筆者らによる宝塚市域及び周辺の継続調査の結果, 追加すべきものが若干判明したので, ここに報告する。

『宝塚の昆虫 I』40頁 43の次へ追加

ホソクビツユムシ *Shirakisotima japonica*  
(Matsumura et Shiraki, 1908)

♂体長30mm内外, 翅端までは38mm内外, 緑色, 背面, 脚, 前翅中央の径脈は赤褐色。触角は著しく長く100mm内外, 黒色である。山地の樹上にすみ, 昼間「ジィ, ジィ, ッキッチ」と鳴く。年2化, 成虫期は6月, 8~9月。



ホソクビツユムシ (♂) 大山大河原 (9-VII-1994)

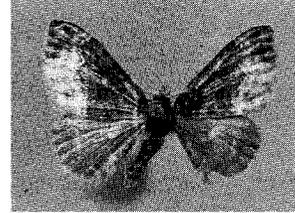
分布: 本州・四国・九州  
宝塚周辺では東六甲~岩倉山 (♂ 23-VII-1933)。

『宝塚の昆虫 III』83頁 133の次へ

(133') ツマグロナミシャク

\* 宝塚市宝梅1丁目13-7 東生物研究所  
\*\* 兵庫県立川西緑台高等学校

*Xanthorhoe muscipata* (Christoph, 1881)



ツマグロナミシャク (♂) 大山大河原 (9-VII-1994)

♂開張17mm内外, 前翅の基部から外横線までは広く黒色, それより外は翅頂部を除き, やや汚白色である。普通種, 幼虫はキツリフネ・キンミズヒキに寄生する。

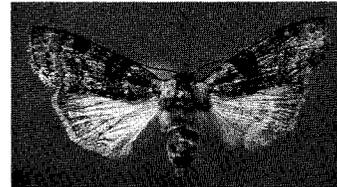
分布: 北海道・本州・四国・九州; サハリン・韓国・シベリア南東部・中国。

宝塚周辺では神戸市北区山田町谷上 (♂, ♀ 24-X-1937)

『宝塚の昆虫 III』53頁 (66') の前へ追加する。

マユミトガリバ

*Neoploca arctipennis* (Butler, 1878)



マユミトガリバ (♂) 西谷西部 (16-IV-1994)

♂開張36mm内外, 触角は♂♀とも葉片状, 第3腹節背板には黒色の飾毛が発達している。前翅横脈下端に黒点が見ることが多い。個体によっては中室内にも小黒点がある。

早春に成虫は出現する。幼虫はクヌギ, コナラの葉を糸でつづり合わせ, その中に住む習性がある。

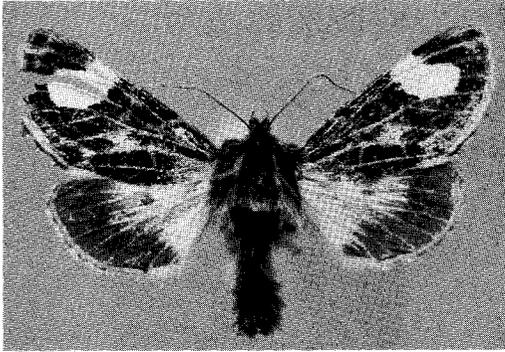
分布: 北海道・本州・四国・九州。

宝塚では北部西谷西部の灯火に飛来 (♂, 16-IV-1994)

「宝塚の昆虫Ⅲ」 275頁 429の次へ

マイコトラガ

*Maikona jezoensis* Matsumura, 1928



マイコトラガ(♂) 有馬温泉駅 (18-IV-1994)

♂開張38mm内外, 体長17mm内外, 体は軟毛でおおわれ, 後胸端に青黒色の毛塊がある。後翅のM<sub>2</sub>はかなり退化する。触角は先細である。前翅は黒色でその前端近くに, 大きな白斑紋が顕著に現れる。

成虫の出現は早春, 灯火に飛来するが稀である。幼虫はノブドウから見出されている。

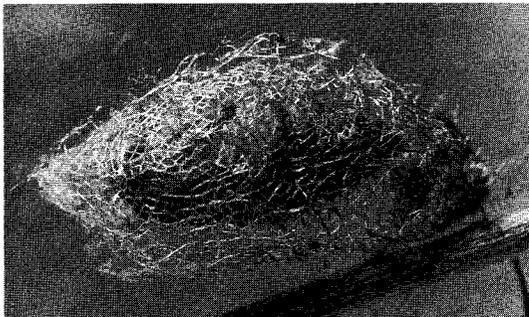
分布: 北海道・本州(東北から近畿地方, 主に日本海側と内陸部に産する)・伊豆半島・伊豆大島・対馬・四国(徳島県)。

宝塚周辺では有馬温泉駅(♂, 18-IV-1994, 東 英三)

宝塚の昆虫Ⅲ, 182頁 280 ヒメヤママユの続き

ヒメヤママユ

*Caligula jonasii* Butler, 1877



ヒメヤママユ 繭

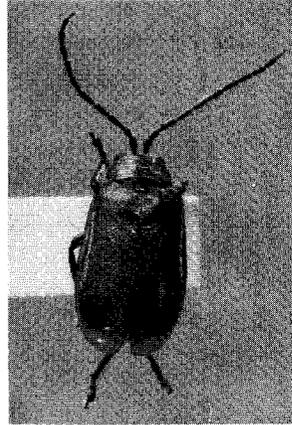
幼齢幼虫を西谷西部宝塚市立少年自然の家の構内で1994年6月19日サンゴジュの葉上で採集。ウメなどの葉で飼育し, 3-VI-'94 蛹化。繭はクスサンのすかし

だわらに酷似するが, 少し小形(45mm×25mm内外), 網目がやや細かいので区別できる。(♀)22-X-'94羽化。鳥取県大山(10-VII-1994)横手道付近で終齢幼虫を採集。蛹化(16-VII-'94)したが, 羽化を見ず。

「宝塚の昆虫Ⅳ」164頁へ入れる

サンゴジュハムシ

*Pyrrhalta humeralis* (Chen, 1942)



サンゴジュハムシ

宝梅1丁目13-7 (4-VII-1994)

13-7。ホオノキの若葉から採集 (4-VII-1994)

体長は5~5.5mm内外, やや小形, 前胸背板中央部の黒紋は前縁近くに達している。

触角第3節の長さは第2節の約1.5倍である。

食草: サンゴジュ・ガマズミ。

分布: 北海道・本州・四国・九州・沖縄: 中国

宝塚では宝梅1丁目

「宝塚の昆虫Ⅳ, 甲虫Ⅱ」 169頁 中央へ入れる。

ムネアカウスイロハムシ

*Monolepta kurosawai* Chujo & Ohno, 1961



ムネアカウスイロハムシ

木元新作(1984)

体長4.5mm内外, 前胸は赤褐色, 前胸背板側縁はまるい。上翅側片は基部1/4まではほぼ平行。それより後方は急速に狭まっている。

食草: ケンポナシ

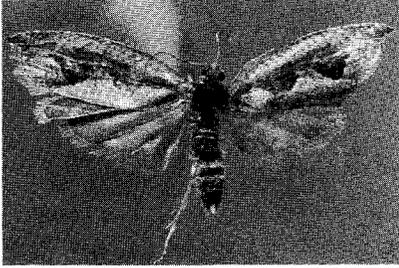
分布: 本州・四国

宝塚では西谷川下川ダム近くで採集(8-X-1994)

「宝塚の昆虫Ⅴ」 32頁, 481の次へ

ナガカギバヒメハマキ

*Ancylis repandana* Kennel, 1901



ナガカギバヒメハマキ (♀) 西谷西部 (16-IV-1994)

♀開張21mm内外, 翅は灰~灰褐色, 前翅端は鋭くとがり, 外縁は弧状に湾曲する。

成虫は早春に出現する。食草は不明である。

分布: 本州: 旧ソ連 (アムール)

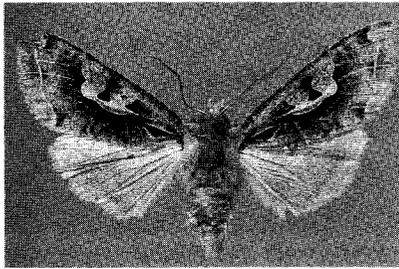
宝塚及び周辺では北部西谷西部 (3♂, 1♀, 16-IV-1994) 灯火に飛来。

神戸市北区山田町 (1-IV-1933)

「宝塚の昆虫Ⅴ」172頁, 752の次へ

スギタニキリガ

*Perigrapha hoenei* Pungeler, 1914



スギタニキリガ (♂) 西谷西部 (16-IV-1994)

♂開張45mm内外, 触角は♂♀とも両櫛歯状, ♀はその枝は短い。胸背中の冠毛は稜状に隆起する。発生は年1回, 温暖地では3月から, 寒冷地では4月から出現する。幼虫は多くの樹木につく。蛹で越冬する。

分布: 北海道・本州・四国・九州・対馬・屋久島; アムール。

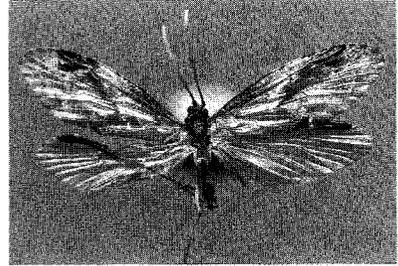
宝塚及び周辺では西谷西部 (♂, 16-IV-1994, 灯火に飛来)。大阪府箕面 (10-IV-1938), 神戸布引滝 (24-IV-1977)

「宝塚の昆虫Ⅵ」 74頁, 63の次へ

マルバネトビゲラ科 Family Phryganopsychoidea

マルバネトビゲラ

*Phryganopsyche latipennis* (Banks, 1906)



マルバネトビゲラ 西谷西部 (16-IV-1994)

体長10mm内外, 翅の開張32mm内外, 触角の基節長大, 他の節は灰黄色, 前翅長よりわずかに短い。頭部は灰黄色, 胸部は黄褐色。距式は2-4-4。前翅は灰褐色で黒褐色の斑紋がある。腹部は黒褐色。成虫の出現は4~6月と9~10月, 灯火に飛来する。幼虫は溪流のよどみや湧泉に生息する。

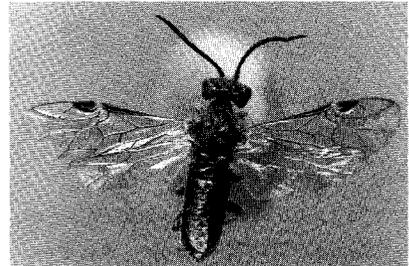
分布: 北海道・本州・佐渡島・四国・九州・対馬; アムール・ビルマ・アッサム・シッキム

宝塚では北部西谷西部の灯火に飛来。(16-IV-1994)

「宝塚の昆虫Ⅶ」 26頁, 4の次へ

スイバハバチ

*Ametastegia suibai* Okutani, 1956



スイバハバチ (♀) 大山 (5-VI-1994)

♀体長7mm内外, 体は黒色。前胸背板。肩板は淡茶褐~赤味がある。脚は黄褐色であるが, 基節, 腿節の中央付近, 後脚の脛節の先半分などは黒色, 各跗節も黒色である。翅は淡暗色, 半透明, 翅脈や縁紋は黒褐色である。幼虫はスイバを食す。

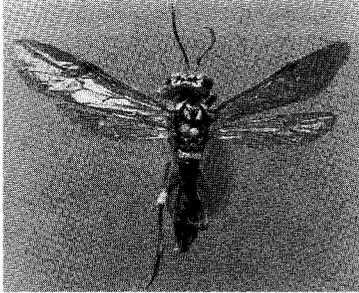
分布: 本州

宝塚周辺では鳥取県大山大河原 (♀, 5-VI-1994) 池田市の中川原の標本焼却。

「宝塚の昆虫Ⅶ」38頁、22の次へ追加する。

#### ハチガタハバチ

*Tenthredo matsumurai* (Takeuchi, 1933)



ハチガタハバチ (♀) 武田尾溪谷 (3-VI-1994)

♀体長12mm内外、トガリハチガタハバチ *T. fortunei* に酷似するが、体が小形である。触角短く、一様に黄褐色で末端淡色でないこと、中胸側板の突起が鈍いことなどにより区別できる。

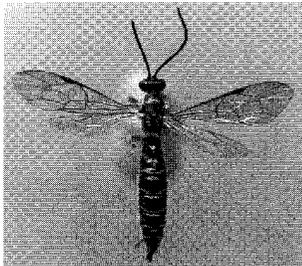
分布：本州・四国・九州

宝塚では武田尾溪谷ぞい (1♀, 3-VI-1994, with Taka Azuma)

「宝塚の昆虫Ⅶ」60頁、47の次へ

#### キオビフシダカヒメバチ

*Sericopimpla sagrae sauteri* (Cushman, 1933)



キオビフシダカヒメバチ (♀) 西谷立合新田 (14-V-1994)

♀体長13mm内外、産卵管6mm内外、体は黒色、腹部の各節の後縁に黄横帯があり、触角は黒色であるが、柄節の下部は黄色である。翅は少しくもり、脈は黒色、鏡胞は菱形～三角形で短い柄がある。前脚・中脚は黄～黄褐色。後脚の腿節は赤色を呈し、脛節の中央は黄色を表す。その他は黒色を呈している。

チャミノガ・オオミノガの幼虫に寄生する。

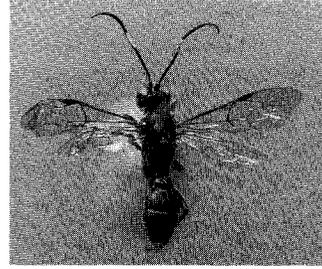
分布：本州・四国・九州：中国・台湾・ジャワ・インド。

宝塚では立合新田 (♀, 14-V-1994)

「宝塚の昆虫Ⅶ」82頁、78の次へ

#### オオドマリヒメバチ

*Pterocormus odomariensis* (Uchida 1926)



オオドマリヒメバチ (♀) (25-V-1985)

♀体長10mm内外、体は黒色で、複眼内縁に黄線条がある。触角の中央部は黄色白紋があり、小盾板・第5～7腹節の後縁は黄白紋がある。翅は淡褐色、翅脈は黒褐色。鏡胞は五角形を呈している。脚は黒色であるが、前・中脚の腿節より末節はやや暗黄褐色がかかる。

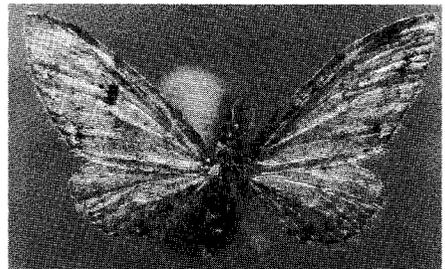
分布：北海道 (利尻島)・本州：サハリン

宝塚では成化標本による (♀, 25-V-1985, 福井恭次)

「宝塚の昆虫Ⅶ」312頁、27の次へ入れる

#### ソトカバナミシャク

*Eupithecia signigera* Butler, 1879



ソトカバナミシャク (♀) 西谷西部 (16-IV-1994)

♀開張18mm内外、♂開張20mm内外、前翅は明るい黄褐色、中央は帯状に黒褐色。白色外横線は不明瞭。横脈点は大、後翅後縁部の中室より下で斑紋は濃い。出現は春、普通種、幼虫はヤマツツジ、サワフタギ、コマユミなどの花を食う。

分布：本州 (東北地方北部より)・四国・九州・対馬・屋久島

宝塚及び周辺では西谷西部 (♀, 16-IV-1994)。灯火に飛来。

有馬温泉神社 (♂, 18-IV-1994)